

えちごせきかわ

# 大蛇まつり

## みなぎる躍動



### まつり誕生秘話

人材育成(発掘)を目的に村が開塾した「えちごせきかわふるさと塾」の塾生の発案で、一九八八年からまつりが始まりました。村にはこれまで、村民全員が参加して楽しむ村全体のまつりがありまして、情報化社会の波に押し寄せ、田舎のもつ良さである地域の連帯感が薄れつつあるため、村民一丸となって取り組むイベントを計画。都会になつて村の良さを掘り起こし、それを肌で感じ、村に生きるこの喜びと自信を持ってもらうことがねらいでした。

### なぜ大蛇?

村には「大里峠」という伝説があります。この伝説は一説によれば、大水害を物語にしたものとも言われています。また一九六七年(昭和四二)八月二十八日に起きた羽越大水害では、多くの犠牲者を出しました。四十年近く経った今も私たちの心に焼き付いて離れません。

このようなことから「大里峠伝説」と「水害供養」の二つをテーマにし、八月二十八日前後にまつりを挙げています。

### 伝説・大里峠

禁断の蛇の味噌漬けを食べた若い人妻が、蛇に化身され、やがて大蛇に成長し、自分のすむ場所をつくるため、荒川をせき止めて関川村を大湖にする計画をたてます。しかし、その話を聞いた琵琶法師は、自らの命とひきかえに情報を事前に伝え、大蛇は村人によって退治されてしまうという物語です。大里峠(四七〇m)は、山形県へと通じる街道にある峠の一つで、この峠が伝説の舞台。その名のとおり幾曲がりも険しい山道になっています。

## ま

つりの見所は、長さ八十二・八m、重さ二トの大蛇を担いで村内を練り歩く二トクで豪快な大蛇パレード。大蛇は頭部を除き五十四個に分かれますが、これは竹とワラを材料にして村の五十四集落が分担して制作したものです。竹は約三百本、約三十分のワラを使用。大蛇は村民融和のシンボルです。

## 村

民四百人が大蛇を担ぎ上げ、村内約六kmをパレード。見物していても十分楽しめますが、飛び入りも大歓迎。長さ二十五mの子ども用小大蛇も一緒に練り歩きます。そのほか、子どもからお年寄りまで誰もが参加できるという発想で始められた喜喜(じゃんけん)大会や、羽越水害で犠牲となった方々を供養する灯ろう流し、夜空を彩る花火大会など、三日間にわたってまつりが練り広げられます。

## 八

月の最終金曜日から日曜日にかけて毎年開催しています。そのほか、県内外にも出掛け、ふるさと東京まつり(東京都立川市)や咲いたまつり(埼玉県さいたま市)、新潟総合スタジアムのこけら落とし(新潟市)などで、大蛇パレードを実施。都市と農村との交流にも成果を残しています。

## まじりの経過と受賞経歴

1988年8月	第1回えちごせきかわ大したもん蛇まつり
1989年8月	日本イベント大賞奨励賞受賞(インタークロス研究所)
1989年10月	2代目大蛇完成(ふるさと東京まつり(東京都立川市)に参加)
1991年8月	3代目大蛇、初代小大蛇完成
1995年8月	丸山大橋開通記念パレード(新潟市)でパレード
1997年6月	羽越水害30周年記念パレード
2001年1月	4代目大蛇完成
2001年4月	21世紀巳年元旦記念パレード
2001年4月	5代目大蛇完成
2002年6月	新潟総合スタジアム・ビッグスワンでパレード
2002年6月	「竹とワラでつくられた世界一長い大蛇」としてギネス認定
2003年10月	ワールドカップ(新潟市古町通り)
2003年10月	咲いたまつり2003(埼玉県さいたま市)に参加
2004年4月	第8回ふるさとイベント大賞(地域活性化センター)
2006年11月	6代目大蛇完成
2006年11月	新潟日報文化賞(社会活動部門・団体)受賞
2007年8月	えちごせきかわ大したもん蛇まつり第20回記念
2007年8月	7代目大蛇完成

